

基礎プログラミングを学んで

稲田礼一

私は一年間基礎プログラミングを学んで、精神力や集中力、考える能力を身に付けさせてくれたものであると思う。初めてプログラミングを履修し始めた頃は、正直難しく考えており、この授業を一年間やり通すことが出来るのか不安が常に頭をよぎっていた。レポートについても量が多くて、授業で行った内容の復習とあっても理解していなければ解けるものではなかったのもので、このレポートが一年間続くのかと考えると、先が思い遣られるものであった。

前期は、主にプログラミングについての基礎知識を学ぶと共に、UNIXで行うことが出来る `kterm` での実行方法などを学ぶ機会が多かった。始めは授業についていくのがやっとであり、レポートも授業を理解していないために毎回苦労するという状況でした。友人と協力することでなんとかレポートを作成し、評価をしてもらい、自分の力で出来るということはあまり実行できませんでした。私は元々数学などの数に苦手意識を持っており、進数計算などは記憶の中に残ってはいましたが、方式などを理解するまでに相当の時間を費やしてしまいました。しかし、友人の支えもあったため徐々に理解していきました。

プログラムは、レポートで様々な問題が出題され、理解しているかを確認する上でも重要なことでした。始めはプログラムの基礎構造を理解するのにてこずり、プログラムを作成して実行してもエラーが表示される繰り返しでした。なぜ、上手く動いてくれないのか考える毎日でしたが、複数回のレポートや内容を理解していくごとに、確実に自分で不備がある箇所を特定できたり考えられるようになりました。日々の積み重ねによって確実に力が着いてきたと実感しました。

後期では、前期の内容を踏まえた上で、確実に自分に力が着いていると実感させられました。初めの頃は、プログラミングなんて自分には出来ないという考え方が頭をよぎっていましたが、その気持ちも前期に学んだことを自信として後期に臨むことが出来ました。自分が何を作成しなければならないのか、どのようにすれば上手くいくのか考える能力もつき、今まで友人から教えてもらうことで理解していたのが、他の友人にも教えられるようになり、教えることで更に自分の技術を高めていくことが出来ました。

後期は、CGI という新しい分野の内容を学んだわけですが、ドロップボタンなど一度は自分が見たことがあるような技術を使い、作成したわけですが、CGI を作成したことで、他の人達にアンケートをすることなどが出来るシステムを取得し、今後の生活に活かすことが出来る機能を学んだ。企業に就職してもこの機能は役立つものとなるだろうと思う。

今まで一年間プログラミングを行ってきたわけだが、今後就職した際にプロ

プログラミングのレポートを複数回行ったことによって、考える力、思考能力、精神力などの力が活かせると思う。企業では間違いなく自分で物事を判断したり、考えて答えを導き出すことが必要になるので、そういった意味では、将来的にも学んだことの影響は結果として表れると考える。一年間のプログラミングで培ったものを今後の生活に活かしていけたら良いと思う。

最後に、まず一年間無事にやり通すことが出来たのでよかった。自分でも日々の積み重ねが結果として表れることを自覚することが出来たので、プログラミングを学んで基礎的なスキル身についたのがためになった。自分でもここまで出来るとは思っていなかったのも、プログラミングが影響するものは多大なものであると感じた。一年間の集大成としてこの文章終わりたいと思います。